

菊池隆さん

⑩

3月11日。震災7年の節目を菊池隆さん、みつよさん夫妻は釜石市の平田第6仮設団地住宅で迎えた。盛岡に自宅を買った後も、この日だけは毎年、仮設で過ごしてきた。言葉にするのは難しいが、特別な思いがわいてくる瞬間だ。

多くの被災者にとり3・11が区切りとなるように、菊池さんにとっても大きな区切りになる。4月中には、仮設団地から完全に退去するつもりだ。

短かったような長かったような仮設暮らしを、菊池さんは思う。狭い、寒い、不便。ネガティブなイメージで捉えられがち

人との縁 仮設が結んだ

な仮設住宅だが、それだけではなかった。ひさし代わりにゴーヤを植え、近所に配った。お返しにワカメなど海産物をもら



仮設住宅から海に向かって手を合わせる菊池隆さんとみつよさん。3月11日午後2時46分、釜石市平田

った。ここで暮らさなければ出会ったことはなかった人たちとの、多くのつながりを築けた。壁の隙間を接着剤で埋めたり、台所の床にスポンジタイルを敷き詰め寒さをしのいだり。日々の暮らしが少しでも楽しくなるよう工夫するすべも学んだ。

「今いる場所が、生きる場所」。仮住まいであっても、そこに暮らす人にとっては、大切な人生の一部だ。課題も含め、東日本大震災での仮設住宅のあり方が教訓としていかされ、万が一の大災害が起きた時は、被災者がより快適に過ごせるようになれば。菊池さんは、そう願っている。(斎藤徹〓この項終わり)